世界一の社風作りの原点がここに

㈱ISOWA 社長 磯輪英之（いそわひでゆき）

深夜の自工場。仕事が遅くなり、やっと帰ろうと工場を見ると、

「あれ、まだ灯りがついている。あいつら、まだやってるんだ」

十年前、わが社の創立八十周年時にスタートさせた企業風土改革運動。その後半年ほど、会社や上司への不平不満を言い続けることで、その先駆となった一〇人弱のメンバーがいました。さすがに半年も続くと、不平不満も尽きてきたのか、あるとき、

「いつまでも文句ばかり言ってるだけじゃ、仕方ない。会社も、上司も頼りにならないから、自分たちで、何ができるか考えようぜ」

と、勝手に「考える」ことを始めました。

勝手に始めた活動だから、会社は一切関与しません。それは「今度こそ決して〝やらせ〟にはしない」という私自身の風土改革に賭ける強い決意があったからです。彼らがどんな活動をしているのか、知りたくて仕方ない。口を出したくて、うずうず。しかしそれをやっては、真の自主的活動ではなくなってしまうので、じっとこらえて距離を置いていました。

しかし、その夜、十二時近くになっても、がんばっている姿に、「ちょっとだけ様子を見て、せめてひと言激励したい」との気持ちで、工場へ入っていったのです。そして、

「連日、仕事が終わってから、夜遅くまでご苦労様。大変だね。ありがとう」

と声を掛けた私に、思わぬ答えが返ってきました。

「社長に言われたから、会社に命令されたからやってるんじゃないんです。だから楽しいし、疲れません。だってやったことを報告する義務もないし、指示されることもなく、自分たちの思うとおりにやれるんですから」

目を輝かせて答える社員たち。激励しようと思った私が、逆に元気をもらいました。これこそ「やらせ」じゃない、それまでのわが社にはなかった、本物の「オレがやる」。これがわが社の風土改革の原点になり、「世界一社風のいい会社を作ろう」という理念へと発展していきました。あのときのみんなの言葉、みんなの笑顔。決して忘れない。私の宝物。